

島根県図書館大会

つなげよう島根の図書館
分かち合おう図書館の未来
ー島根県図書館協会ステップワン！ー

活動事例報告

平田高等学校
教諭 舟木 司

令和3年10月17日（日）くにびきメッセ

発表テーマ

平田プラタナスプランと ひらこう図書館の連携



プラタナス みどりのかげに
青春の夢は 羽ばたく

ひらこう＝平田高校って？



ひらここの魅力は、

①中規模の普通科高校

②部活動が活発

③地域協働学習



①中規模の普通科高校

**多くもなく、少なくもなく
ちょうどいい！！**

「生徒一人ひとりの 顔が見える学校」

中規模校

1学年 160人

全校で480人

令和4年度から変わるところ

**総合的な探究の時間が
4単位になり充実**

調べる力・まとめる力・伝える力・
話し合う力・コミュニケーションの力

島根県立大学や島根大学と
連携した授業

5年後、10年後の自分の姿を
想像できるように

自分で自分の進路を
決めることができるように

そのための力

総合的な探究の時間

プログラム

1年 研修旅行

学部学科ガイダンス、職業人講演会、
地元企業ガイダンス、個人探究活動、
プレゼンテーション

2年 地域協働学習

班別探究活動、個人探究活動
プレゼンテーション、小論文ガイダンス

3年 志望理由書作成、プレゼンテーション、 インターンシップ（看護・保育・栄養）、 小論文演習

②部活動が活発

陸上競技

柔道

剣道

野球

卓球

バスケットボール

バレーボール(女子)

サッカー

テニス(男子)

ソフトテニス(女子)

吹奏楽

美術

書道

放送

文芸図書

ESS

JRC

写真

部活動加入率92%

約400名

部活動

文芸図書部

全国高等学校総合文化祭



部活動

放送部

特別警戒
実施中

第66回
NHK杯
全国高校
放送コンテスト
全国大会決勝

と き 7月25日(木)
開 場 8:15
開会式 10:00
表彰式・閉会式 15:30
と ころ NHKホール

・開会式
・全部門決勝
テレビドキュメント部門
創作テレビドラマ部門
アナウンス部門
朗読部門
Nコン企画
朗読

主催/全国放送教育研究会連盟
NHK

全国高等学校総合文化祭

NHK杯全国高校放送コンテスト

高校生 VOLUNTEER AWARD 2018

J R C 部

部活動

全国高等学校総合文化祭
全国ボランティアアワード



部活動



全国高等学校駅伝競走大会
男女アベック出場
男子
2年連続

陸上部



女子
11年連続

部活動

柔道部

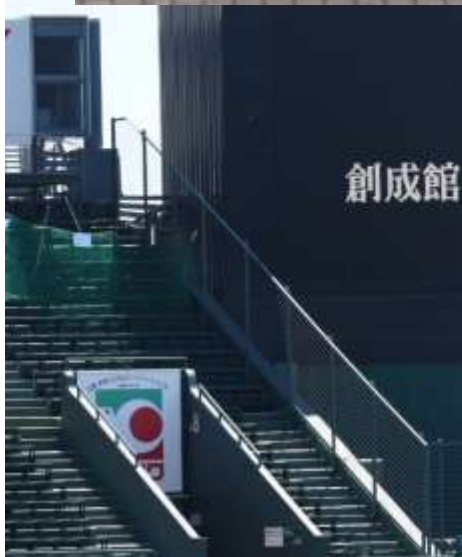


インターハイ

全日本ジュニア体重別選手権大会優勝

野球部

2020年甲子園 高等学校野球交流試合



ひらここの魅力

③地域協働学習へ 行く前に

**ひらここの図書館
の紹介をします！**

平田高校の図書館「ひらこう図書館」は
管理棟と教室棟をつなぐ架け橋（渡り廊下）
生徒昇降口の真上 2階にあります。



ひらこう図書館 館内の様子

現在の蔵書 24,766冊

1 日平均貸出数

R1年度 16.5冊

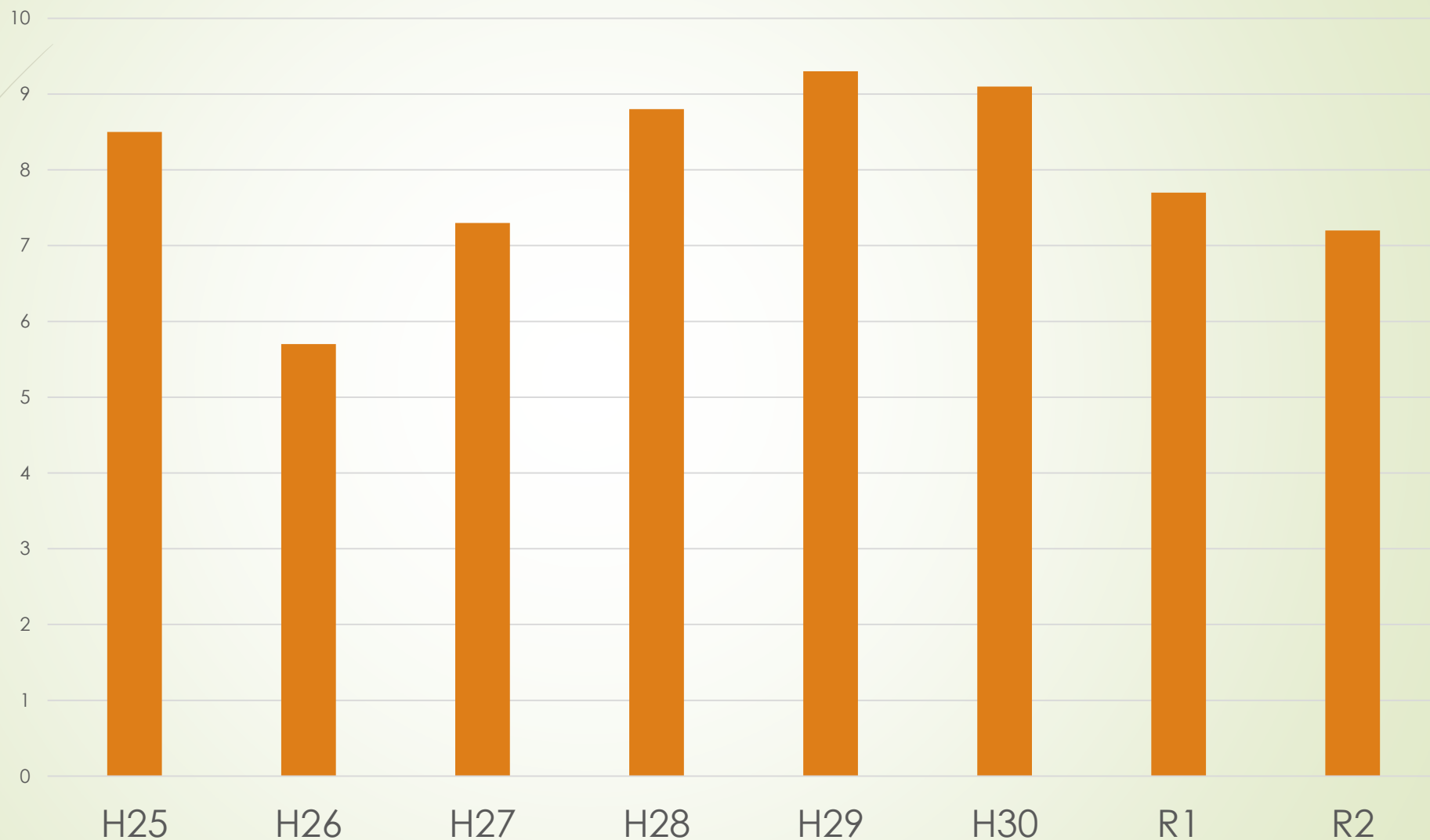
R2年度 17.4冊



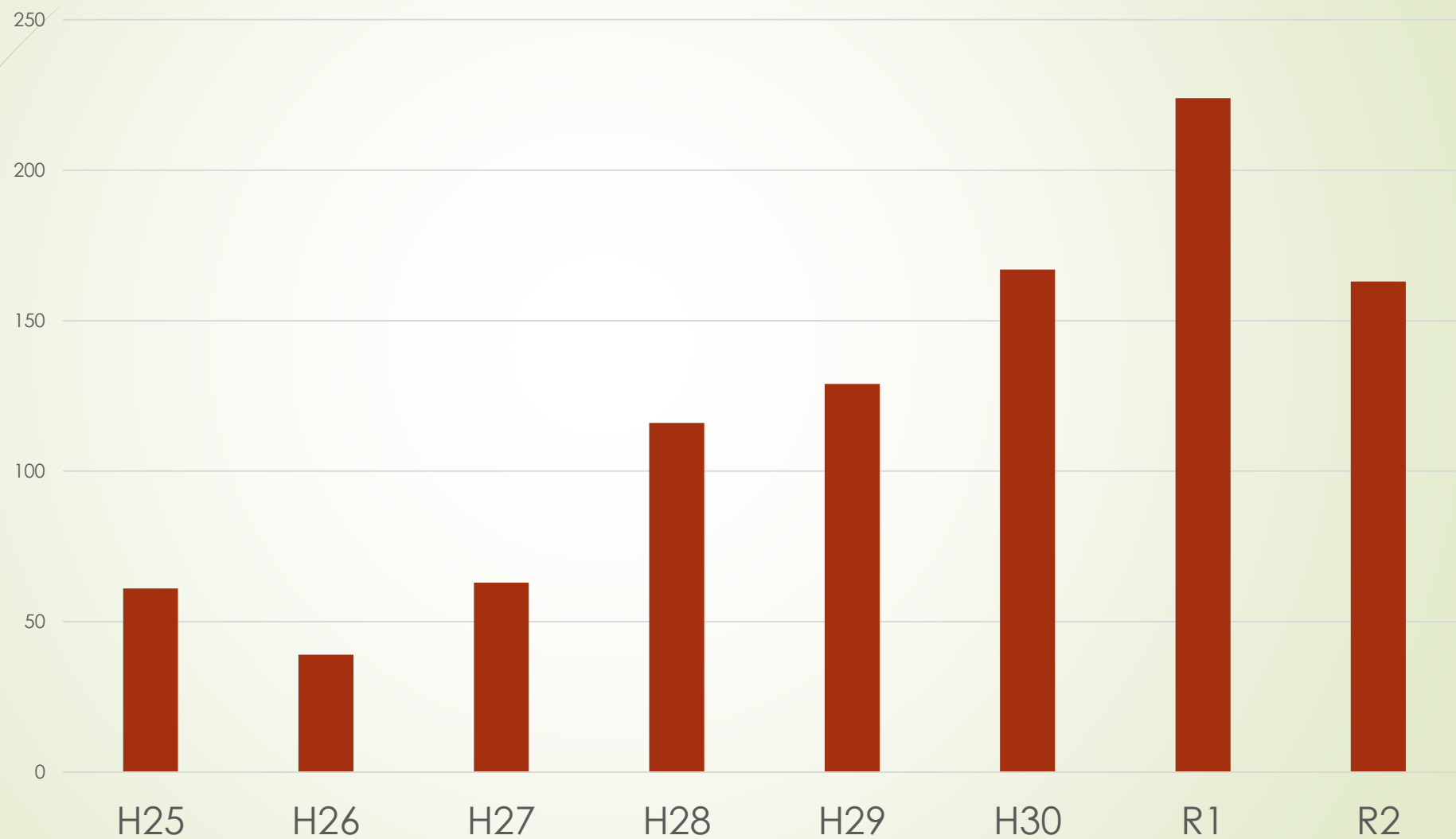
R 2 年度 受入1,228冊
毎月100冊以上の新しい本が入ってきます。
1人あたり貸出冊数 R1年度：7.7冊
R2年度：7.6冊



年間1人あたりの貸出数の変遷



ひらこう図書館の授業利用数の変遷

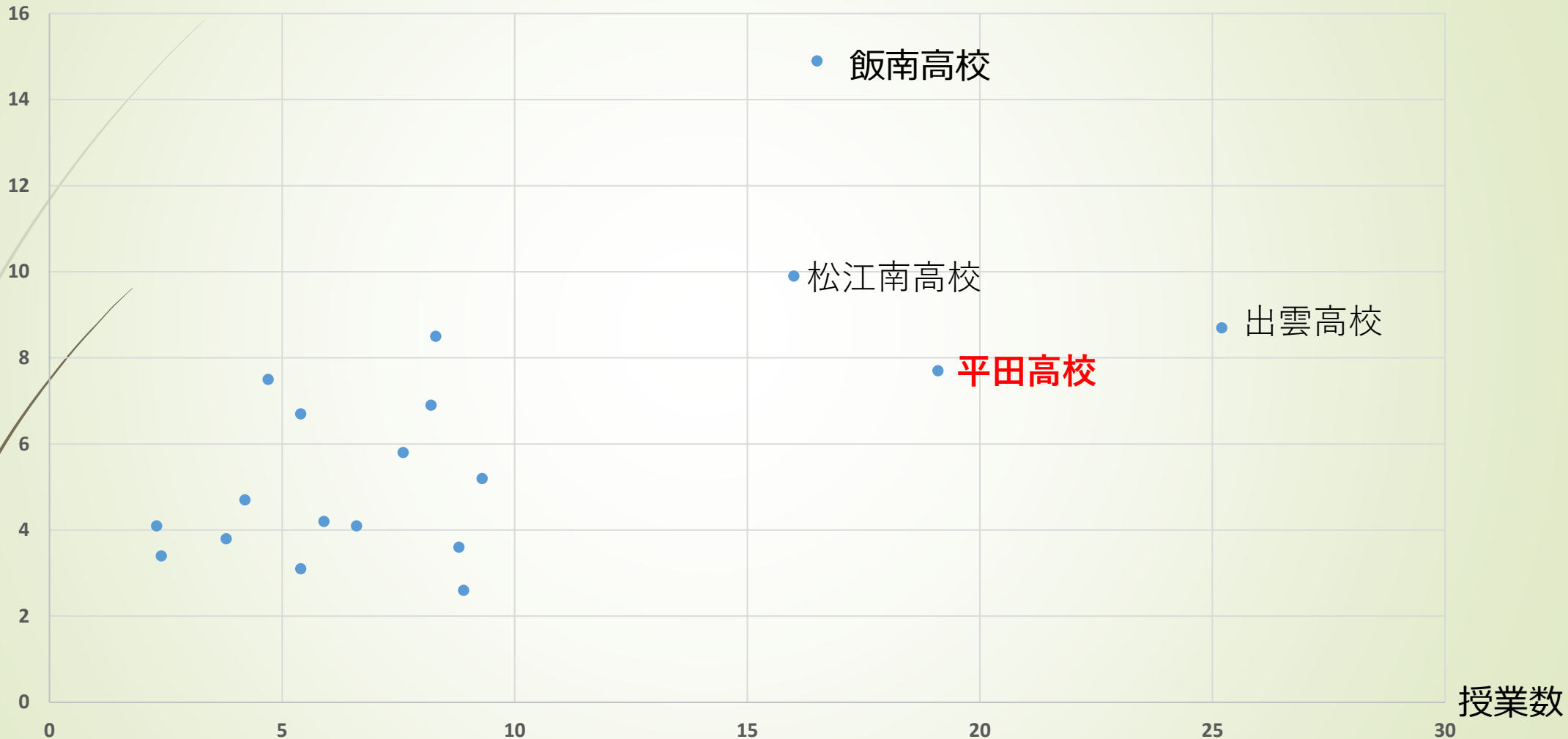


ふたつのグラフを比較すると・・・

- ひらこう図書館を利用した授業は増加しています。
（R 2 年度はコロナ禍で減少）
- 年間 1 人当たりの貸出数の変遷と比較すると、
ひらこう図書館の利用と貸出がリンクした形を
示しています。（全く無関係とは言い難いです。）
- 利用指導と読書案内は図書館活用の両輪です。

授業での図書館利用（時間）と貸出数（冊）

貸出数



令和元年度「島根県高等学校図書館概要調査」（令和元年11月5日発行）より

授業での図書館利用と貸出数

- 県内高校（普通科）の図書館利用授業数（1クラス当たり）と生徒1人当たりの貸出数の関係をグラフ化してみました。
(平成30年度の実績)
- 図書館利用の授業が年間1クラス当たり10時間以内で1人当たりの貸出が10冊以内の中に散らばる学校が多い中、数校15時間以上利用している学校があります。
- こうした学校は貸出もある程度認められて、この傾向は平成29年度も同様でした。平田高校はそのグループに位置づきます。ひらこ図書館で平成28年度あたりから図書館利用が増えた背景を探りながら、平高生とひらこ図書館、そして探究学習の意義について考える機会が増えました。

図書館の前の掲示板は ひらこう生徒の活躍



地域協働学習の足跡



図書準備室入口は「新着図書案内」ボード 図書館入口は「インフォメーション」ボード



そして、ひらこう図書館は眺めがいい！
外を眺めながら本を読める専用の椅子が。



図書館から伯耆富士（大山）が見えます！

7月12日 島根県東部 集中豪雨の日 雨上がりです。



ひらこう図書館のスタッフ

図書研修部 常駐 4 名

教諭 3 名（舟木 司、石飛智弘、影山祥大）

主任学校司書 1 名（梶谷 妙）



図書研修部のお仕事

図書館の利用促進を図り生徒の探究学習を支援するとともに、教職員の教育活動の展開に寄与する。

R 3 年度：重点目標

- * 図書館活動
- * 図書館だより、図書館報
- * 生徒会図書委員会
- * 読書感想文・読書感想画
- * 「学び」のガイドの活用促進
- * 文芸図書部の活動支援
- * ビブリオバトル
- * 人権教育
- * 文化講演会
- * 教職員研修
- * 文科省事業（総合的な探究の時間）
- * 校内 I T の保守管理
- * 芸術鑑賞会
- * 鈴懸祭（文化祭）協力

図書館活動

図書館オリエンテーションの様子



地域協働学習のための郷土資料コーナー



「学び」のガイドの活用

「図書館からはじまる「学び」のガイド」活用

- 「読書ノート（1969）」「図書館利用の手引き（1985）」
「図書館ガイド（1996）」と変遷を重ねた冊子は、
平田高校が高図研事務局をしていた2年間（2012／2013）に
高図研研究部によって改訂作業が進められ「図書館からはじ
まる「学び」のガイド」として生まれ変わり2015年から 本
格的に使用しています。まさに探究学習に対応できるガイド
として全国的にも評価されています。入学時に購入、新入生
図書館オリエンテーションの時間に配布しますが、平田高校
では活用する場面が少なかったです。単発的で系統立てられ
ることがない調べ学習的な図書館利用が多かったからですが、
2016年に教職員全員分の「学びのガイド」を年度内貸与とし
ました。教員にそれぞれの教科で図書館利用をイメージして
もらうことを目的としました。

文芸図書部の活動支援

夏井いつき先生をお招きして「句会ライブ」

平田高校 鈴懸祭
句会ライブ 8月29日(木)

ゲスト **夏井いつき**

日本を俳句の国に

俳句が百年後も高く美しい山であってほしい。富士山が美しいのは、豊かで広い裾野があるからです。

平田文化館プラタナスホールにて
TBS系「プレバト!!!」でおなじみの夏井いつき先生の句会ライブ！



人権教育：各学年ごとのホームルーム活動

教職員研修「LGBTQを学ぶ」松島彩さん



松島彩さんは「山陰中央新報」のコラムに
ひらこうでのエピソードを紹介してくださいました。



センバツ出場記念碑の前で

芸術鑑賞会

今年度は NHK交響楽団のメンバーによる
ピアノと弦楽四重奏のコンサート



文化講演会

フォトジャーナリスト 小林紀晴先生

オンラインで開催。集英社文庫100冊の寄贈がありました。

2021 高校生のための オンライン開催

文化講演会

演目
写真を撮るって何？

講師紹介
1968年長野県生まれ。写真家。東京工芸大学芸術学部写真学科教授。東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業。新聞社にカメラマンとして入社後、1991年独立。アジアを多く旅し作品を制作。2000-2002年渡米(N.Y)。近年は東京、故郷・諏訪地域などを被写体とした作品制作も行っている。著書に『写真で愉しむ 東京「水流」地形散歩』のほか、『写真学生』『days new york』『メモワール』『kemonomichi』『Silence of India』『ニッポンの奇祭』『見知らぬ記憶』など多数。1997年『DAYS ASIA』で日本写真協会新人賞、2013年、写真展『速くから来た舟』で第22回林忠彦賞を受賞。

小林紀晴先生



鈴懸祭（文化祭）

生徒指導部と協力して講演会を企画します



今年の講師は FROGMAN（小野 亮さん）

みんなのお楽しみ「クリスマス会」

図書委員会の企画



そして吹奏楽部のクリスマスコンサート



ビブリオバトル

放送部が制作した番組が地元CATVで放送されました。



探究学習のスタート

図書館を活用した（探究）授業の変遷

	1年生	2年生	3年生
平成25年度			キャリア教育？プレゼン
平成26年度			キャリア教育？プレゼン
平成27年度	"若者文化"に関して問いを立てる		プレゼン パスファインダー→ポスターセッション
平成28年度	情報科「『学び』のガイド」活用		プレゼン パスファインダー
平成29年度	情報科「『学び』のガイド」活用	"大阪"研修報告	プレゼン パスファインダー
	探究学習		
	高校卒業後に学びたいこと		社会の抱える問題にどう立ち向かうか
平成30年度	情報科「『学び』のガイド」活用	"名古屋"研修報告	地域課題解決学習
	探究学習		
	高校卒業後の進路先で学べることや、学びたいと思うこと		
令和元年度		地域協働学習	志望理由プレゼン
	探究学習		
	関心のある「学問」について探究し、学ぶことのおもしろさを体感する大学での研究や学部・学科のイメージをつかむ		
令和2年度		地域協働学習	志望理由プレゼン
	探究学習		
	自分から		志望理由書を書くために

- 
- 情報の授業や3年生のプレゼンテーション指導の取り組みを経て平成29年度2学期「探究学習」と銘打った授業が始まりました。平成30年度もほぼ同様に展開。
 - 推薦入試に向かう生徒が多いことを前提に、この学習が志望理由書にスムーズに移行できることを意識したテーマ設定となっていました。
 - 1・2年生では意識に差があることが想定され、
1年生「高校卒業後に学びたいこと」
2年生「社会の抱える問題にどう立ち向かうか」
を考えるように示されました。

進路ビブリオバトル（平成29年度）

- 自分の目指したい進路に関わる本を高校時代に1冊くらいは読んでもらいたいと考えた司書より導入としてビブリオバトルが提案されました。（3年生のプレゼンテーションが例年よりは余裕があったためです）

今でこそ校内大会が定着していますが「人前で本のことを話すなんて無理」という生徒が多かったです。





事前に進路希望調査を確認し、カテゴリー分けしたグループ毎に書籍を準備、生徒はそこから本を選ぶことを導入1時間目の課業としました。あくまでも資料を読み込むことが目的なので、発表はバトルというより読んだ本の紹介に徹しプレゼン5分・質疑応答3分の時間設定のみ本来のビブリオバトルのスタイルを流用していました。

平成30年度（2018年度）地域課題解決学習

平田高校・ひらこう図書館にとって大きな転機になったのが、地域課題解決学習でした。

平成30年度、平田商工会議所の創立70周年の記念事業として本校と一緒に地域の活性化に取り組みたいと要請が入りました。

検討も準備も覚悟もないままに
「出雲産あずき」「駅サイトまつり」「平田まつり」
に取り組むこととなっただけでなく、それぞれのイベントの日程はとてもタイトでした。

あずきに関連する探究の成果

出雲と北海道の小豆 地理的条件の違い

～気候・地形・土壌を比べて～

2年1組2班

小豆のポリフェノール量の実験結果報告

2年1組1班

和菓子「雲州丸」

2年1組3班



パウンドケーキ 販売戦略



2年1組 4班

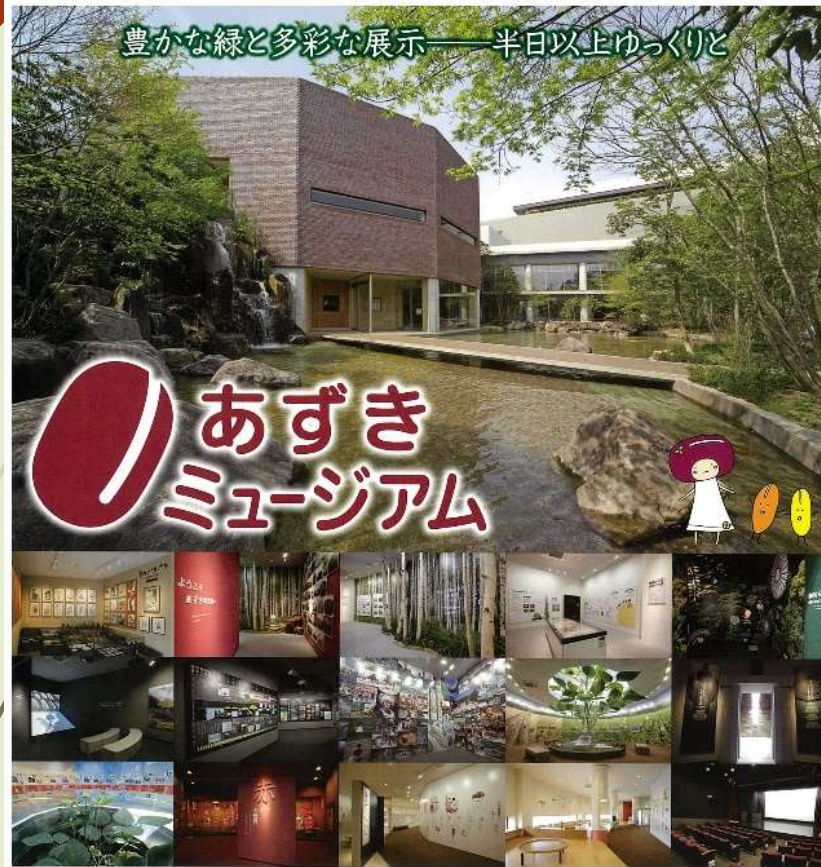
地域課題解決学習は、ひらこう図書館を活用

➡ 探究に必要な資料をまとめ本棚に

(例) あずきファイル



「あずきファイル」の中には・・・



照葉樹の森にゆったりと流れる時間
小さなあずきの素顔な世界
たっぷり時間をとって
新しい発見をお楽しみ下さい。

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:00まで)
休館日 火曜日
年末年始と指定点検等の臨時休館
入館料 一般 (高校生以上) 1200円
小中学生 600円
年間パスポート 2500円 (2名以上 1年間有効)

● 和室の集合
山崎屋敷(山崎)古民家(山崎) 車約15分
● バスの集合
山崎バス、山崎駅前バス乗り場から山崎駅へ乗車
→山崎駅よりバスで約15分
● 自車の集合
山崎バス、山崎駅前バス乗り場から山崎駅へ乗車
→山崎駅よりバスで約15分
● 自車の集合
山崎バス、山崎駅前バス乗り場から山崎駅へ乗車
→山崎駅よりバスで約15分

株式会社 御座候 あずきミュージアム
山崎駅前バス乗り場011番地01 TEL 079-282-2380



司書が「あずきミュージアム」
に出向いて収集した資料も

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

2019年度予算額（案） 251百万円(新規)



新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築



標準スキームを踏まえつつ、地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開

【プロフェッショナル型】 〈専門学科中心10校程度〉

地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域の特産物の付加価値を高め安定的な食料生産により地域の発展を担う人材を育成
- ・ものづくりに関する専門的な技術を身に付け、地場産業を支える人材を育成 など

【地域魅力化型】 〈普通科中心20校程度〉

地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域との連携に係る教科横断的な単位を設定
- ・衰退しつつある地域の振興方策を地域との連携により研究・実践 など

【グローバル型】 〈学科共通20校程度〉

グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成。

～特徴・取組例～

- ・グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発
- ・海外研修等カリキュラムの中に体系的に位置づけ
- ・海外からの留学生を受け入れるなど外国人生徒と一緒に授業・探究活動等を履修
- ・コミュニケーション能力を重視した外国語（複数外国語含む）の先進的な授業を実践 など

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

◇国（文部科学省）の事業

全国で20校（地域魅力化型）

◇事業の趣旨

①**地方創生**

- ・高等学校を地域振興の核と位置づける
- ・将来の地域社会を担う人材の育成

②**新しい学習指導要領への対応**

- ・主体的・対話的で深い学び ⇐ 体験的・探究的な学び
- ・社会に開かれた教育課程の実現 ⇐ コンソーシアムの構築

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

◇事業に取り組む目的

- 1 **生徒の学びの充実** ⇐ 地域には生きた課題が数多く存在
 - ・ 地域における活動を通じた探究的な学びの実現
 - ・ 学校の中だけではできない多様な社会体験
- 2 **学校の魅力化** ⇐ 普通科高校の特徴づくり
 - ・ 地域との協働による教育活動を推進する学校
 - ・ 将来の地域社会を支える人材を育成する学校
- 3 **地域の活性化** ⇐ 平田地域の衰退
 - ・ 地域課題の解決
 - ・ 地域への愛着や自己有用感 ⇒ 地元定着やUターンを促進

平田プラタナスプラン

地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」

「プラタナス」は平田高校の校歌の一節にも登場してくる平田地域のシンボルツリーである。
過疎化や高齢化、産業の衰退が進む平田地域において、地域の課題解決に向けた「地域協働学習」を柱としたカリキュラム開発をすることで、生徒自身が『自分というプラタナス』を育て、地域にイノベーションをおこすことのできる人材を育成する。

また、大きく育ったプラタナスの木(卒業生)は豊かな土壌(地域)を育み、新たなプラタナス(次世代を担う子どもたち)を育てていく「地域人材育成循環システム」を構築できる。

「自分」というプラタナスを育てる

カリキュラムドクター(CD)
(樹木医)

校訓
創 協 自
造 同 律

Mission3: ファン・交流人口の増加策

《木綿街道・本町商店街の活性化》

- ①: イベント企画
- ②: 観光振興

効果①: 地域活性化のノウハウの蓄積
効果②: 街づくり意識の醸成

Mission2: 多文化共生社会の推進

《外国人が住みやすいまちづくり》

- ①: 外国人との交流会
- ②: 多文化啓発活動

効果①: 多文化理解のノウハウの蓄積
効果②: 国際交流意識の醸成

Mission1: 地域ブランドの創出

《出雲産あずきの普及》

- ①: 商品開発
- ②: 基礎研究

効果①: ブランド化のノウハウの蓄積
効果②: 担い手意識の醸成

Step3(3年次)

- > 個人探究活動
- > 志望理由書の作成
- > 3年間のまとめ
- > 地元中学校での成果発表
- > 地域協働フォーラム(秋)成果発表
- > 特別講座・地域探究

Step2(2年次)

- > フィールドワーク
- > 大学教員の講演会
- > 班別探究活動
- > 地域協働フォーラム(秋)成果発表
- > 地域活性化に関する講演会
- > 地域と高校生の未来を語る会
- > 個人探究活動
- > 地域協働フォーラム(春)成果発表

Step1(1年次)

- > 平田ウィングバスツアー
- > 職業人講演会
- > 地元企業ガイダンス
- > 名古屋研修旅行
- > 研修旅行の成果発表
- > 学問分野別ガイダンス
- > 地域協働フォーラム(秋)成果発表
- > 地域と高校生の未来を語る会
- > 個人探究活動
- > 地域協働フォーラム(春)成果発表

継承する

発展する

深化する

協働する

学ぶ

知る

支援

指導

ミッションプランナー(MP)

ミッションコーディネーター(MC)

商工会議所職員を配置

地域肯定感

大学ゼミナールへの参加
学生同士の学び合いの場をつくる

新たな地域人材(平田を愛する卒業生)



コンソーシアムの構築

平田商工会議所

公立大学法人島根県立大学

出雲市

平田ロータリークラブ

平田ライオンズクラブ

平田地域コミュニティセンター（11地区）

平田青年会議所

暁星会（平田高校卒業生会）

雲州平田文化協会

ひらたCATV

NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構

出雲市立平田中学校

出雲市立向陽中学校

カリキュラムドクター

島根県教育委員会

平田高校PTA

各クラス3班に分かれて活動しました。

2-1	2-2	2-3	2-4
地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～	多文化共生社会の推進 ～外国人が住みやすい街づくり～	ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道・本町商店街の活性化～	
<班で取り組むこと> 1班 商品開発（和） 2班 商品開発（洋） 3班 基礎研究	<班で取り組むこと> 1班 異文化理解（小中） 2班 受入体制（行政） 3班 受入体制（地域）	<班で取り組むこと> 1班 木綿街道活性化 2班 木綿街道活性化 （デザイン開発） 3班 ジオラマづくり	<班で取り組むこと> 1班 本町商店街活性化 2班 一畑電車の活用 3班 平田ウィング活用 （観光資源開発）
<全員で取り組むこと> ・商品販売フェア	<全員で取り組むこと> ・外国人との交流会 ・学校等への普及活動	<全員で取り組むこと> ・駅サイトまつり	<全員で取り組むこと> ・人生ゲームヒアリング

＜例＞ 交流人口の増加：イベントチーム 平田まつりメインステージのスタッフ



この日のゲストは・・・井手上漠さん



③地域協働学習

総合的な探究の時間の
メイン



私たちが学習することで、

地域に貢献する。

地域を活性化する。

地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」

平田高校で 地域と協働する

卒業後も 地元に関わる

地元でイノベーションを起こす

情報収集



課題の発見



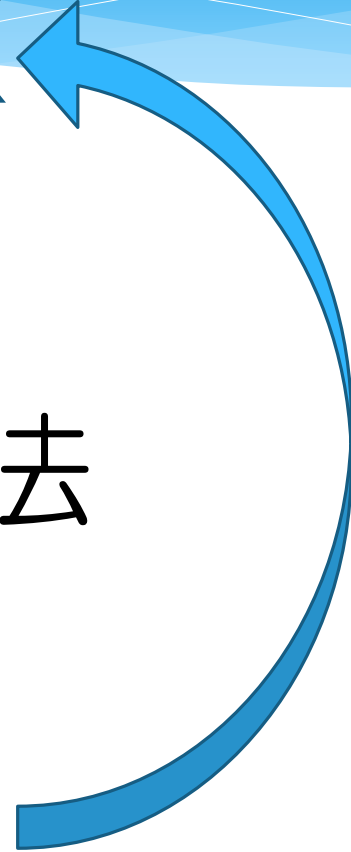
課題解決案・方法



実践・検証



深化・発展



Mission 1 地域ブランドの創出

出雲小豆を使った商品開発

パッケージとは？

一昨年開発した商
品のパッケージを
考える

商品についての知識を
深める



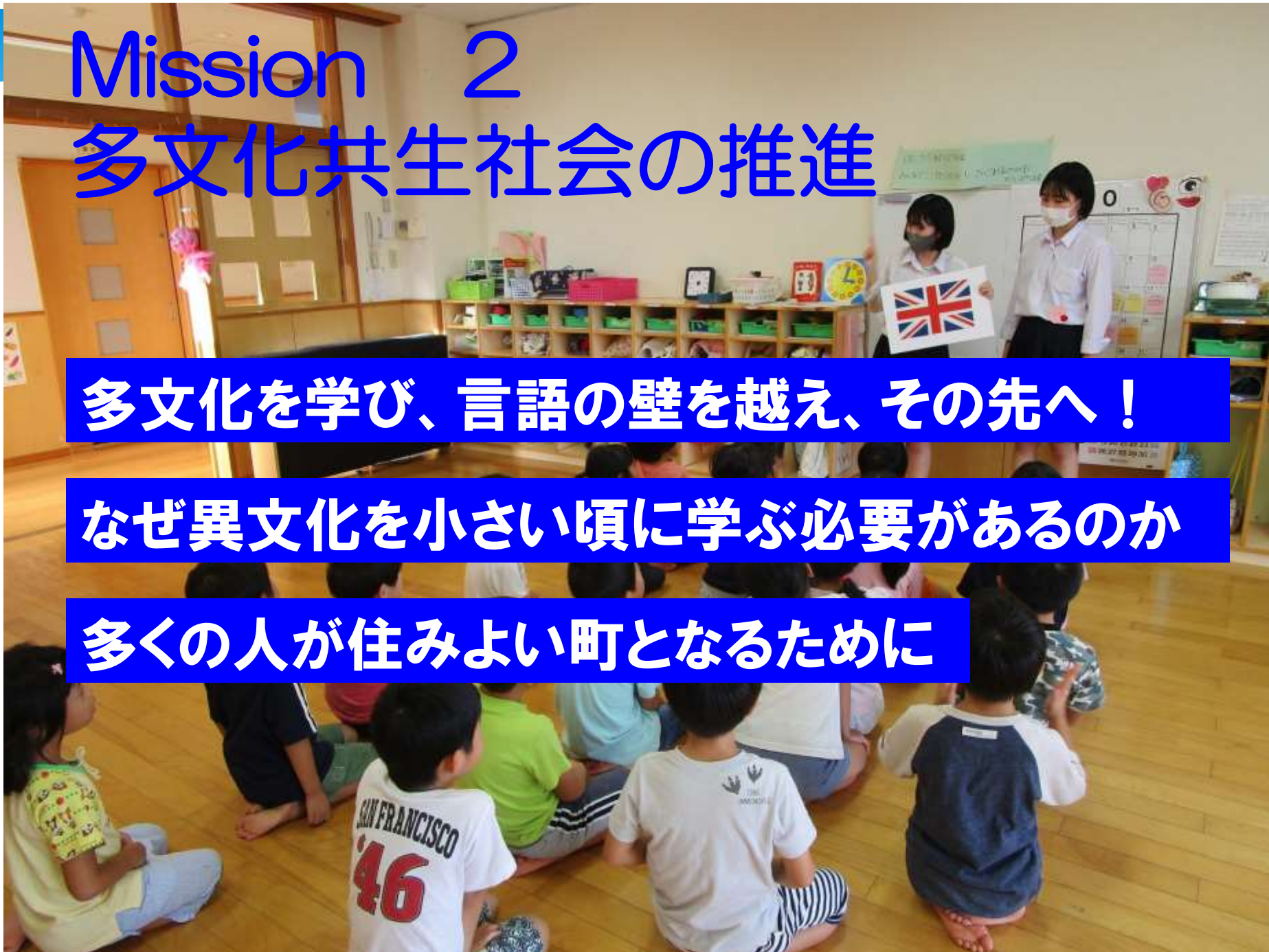
Mission 2

多文化共生社会の推進

多文化を学び、言語の壁を越え、その先へ！

なぜ異文化を小さい頃に学ぶ必要があるのか

多くの人が住みよい町となるために



GLOBAL GAMES

 **GLOBAL GAMES**

～高校生といっしょにあそびましょ～

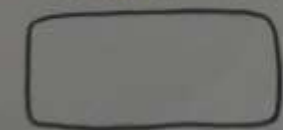
やること
フットサル と もちつき

10/10 (Saturday) (土) ① 13:30 ~ 17:00

📍 アワテ-ひかわ (いすもし 2140401) かわねさん
(出雲市 斐川町 上直 3 2 4)

行きたい人は
こちら↓に書いてください

 10/2 (金) 37

もちもの👉
📱 スマホ
👟 うんどうくつ (うわ(靴))
👒 ぼうし
🧢 ぼうし

参加費

PROJECT by HIRATA High School Students (S-2)



Mission 3

ファン人口・交流人口の増加

ジオラマ in 木綿街道

雲州平田船川を調べてみた

本町改革

空き家再生

一畑電車

地域協働学習を推進するスタッフ

2019年

主担当（教務） 副担当（2年） + 司書 + 2年副担任

2020年

ワーキングチーム

3名（総務・教務・進路指導） + 司書 + 2年副担任

2021年

ワーキングチーム

7名（主幹教諭・高大連携推進員・総務・教務
進路指導・図書研修 + 司書） + 2年学年会

ひらこう図書館を活用した地域協働学習

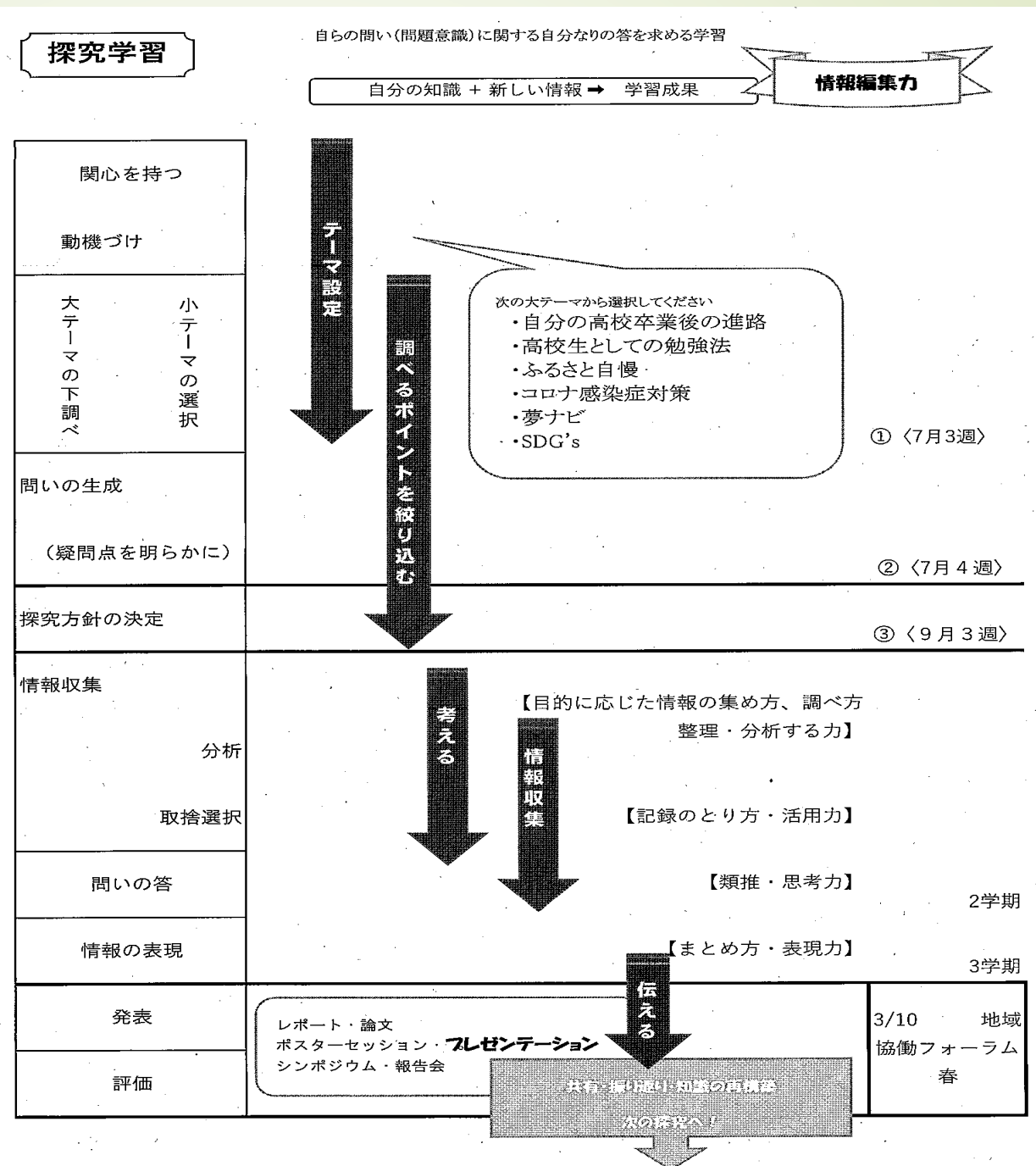
2020年度（令和2年度） 1年生・探究学習 その流れを紹介します。

1年生探究学習(図書館活用) 進捗表

1年生の探究学習は下記の表のような日程で、図書館を活用しながら実施した。探究の過程に応じたプリントを用意、「学びのガイド」で補足しながら時に応じて提出を課した。

時間	期間	展開	配布物	学びのガイド
1	7/13～7/16	導入 発想を広げる	全体の流れ マインドマップ&マンダラート	8～10
2	7/20～7/22	テーマの選択 発想を絞り込む	5W1Hマップ	12～13
3	9/8～9/9	問いの生成 小さな問い	考え方のパターン キーワード作成シート	11 4～5
4	9/23～9/24	情報収集 インターネットVer. 問いの答	情報収集 インターネットVer. 参考文献リスト 情報カード 情報記録	18～20 26～27
5	10/7～10/9	中間発表	中間発表シート テーマ・問い・パターン・キーワード・仮説	
6	10/15～10/16	情報収集 本Ver. 問いの答	それぞれに本	14～17 22～23
7	12/7～12/9	情報収集	参考文献リスト	
8	12/14～12/17			
9	12/18～12/21	「未来を語る会」 準備		
10	12/23	地域と高校生の未来を語る会		
11	1/13～1/1	情報の表現	平田高校図書館報No.77	
12	1/25～1/28	情報収集	展開シート	
13	2/1～2/5			
14	2/15～2/19	発表シート仕上げ		
15	3/3～3/5	クラス内発表		
16	3/8～3/12	直前総仕上げ		
17	3/16	地域協働フォーラム2021春		

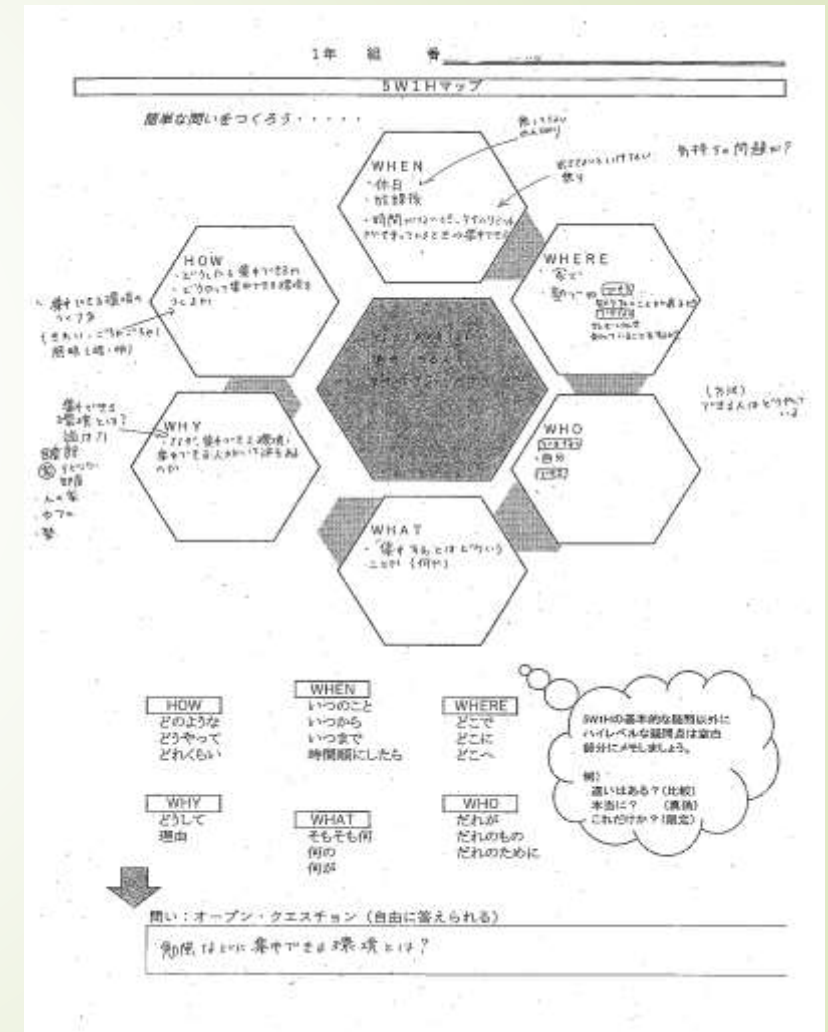
生徒に示した 探究予定表



2 時間目：発想を絞りこむ ➡ テーマ設定

「Where」ひとつをとっても「どこで」「どこに」「どこへ」といろいろな捉え方ができることを示したうえで、前時自分を中心に発想を広げ据えたテーマを、逆に絞り込む方向で5W1Hマップに従って設定を進めました。基本的な問い以外に生じたハイレベルな疑問点は欄外にメモしています。

この過程を経て、探究テーマを設定するように指示しました。



3 時間目：問いの生成

テーマ設定の後、やみくもに情報収集する生徒が多く見受けられた前年度までの反省から、このタイミングで「考え方パターン」を示しました。

全体的な構成をイメージするのに有効であることはもちろん、そこに至るまでの小さな問いの解決を導く手段になることも説明しました。

それぞれの素材に当たるA・B・C・Dには新型コロナウイルス感染症の事例を当てはめていき

・・・と、このように進めていき・・・

考え方 パターン			
マトリックス図		A～Dの4つの要素の 関係性・方向性を 考える	新型コロナウイルス 感染症 自粛と経済
分類		A・B・Cを階層構造で考える 例) A:主張 B:理由 C:例	A:コロナ禍 B:経済 学校 C:特別定額給付金 GO TO トラベル 部活動大会中止
比較対象		A:特徴(相違点) B:特徴(相違点) C:類似点	A:コロナ初期症状 B:熱中症症状 C:共通症状
原因・結果		A:原因 B:現象	A:3密状態 B:クラスター発生
原因・結果 + 影響・対策		A:原因 B:現象 C:影響 D:対策	A:3密状態 B:クラスター発生 C:差別・中傷 D:文科省から 緊急メッセージ
連鎖		Aが起こった結果、Bが起こり Bが起こった結果、Cが起こる という連鎖関係	A:スペイン風邪流行 B:3密を避ける効果 確認 C:3密対策徹底
時系列		時間順にA、B、C…… という現象変化が起こった	A:中国武漢で発生 B:ダイヤモンドプリンセス号 C:バスツアー連発中感染 D:志村けん死亡 E:自粛要請 B:第2波到来



4時間目：情報収集 インターネットver.

5時間目：中間発表

6・7・8時間目：情報収集 ひらこう図書館資料ver.

9時間目：「地域と高校生の未来を語る会」原稿作成

10時間目：「地域と高校生の未来を語る会」

11時間目：情報の表現

12・13時間目：情報収集 ひらこう図書館ver.

14時間目：発表原稿仕上げ

15時間目：クラス内発表

16時間目：直前総仕上げ

17時間目：地域協働フォーラム2021春



ひらこう図書館での探究学習支援の成果をあげるならば、一番に生徒の資料請求の質が高まったことが上げられます。

平成25年当時、受験準備の時期になっても図書館が使われることは多くなかったですが、プレゼンテーションの準備を重ねるにしたがい、まずレファレンス数が増加しました。特に最近では、大学の教授の論文コピーを国立国会図書館から取り寄せる希望が寄せられるようになりました。

レファレンス対応が書籍では叶わずインターネットからのコピーも決して少なくはないですが、これらはファイル資料化することで新たな出番を待つことになります。新聞記事のファイルは、令和2年度は生徒自ら手にとり、さらに新しいレファレンスに発展する場面がありました。



2021年度（令和3年度）

ひらこう 地域協働学習のテーマ

わがところを わがことに

ひらこうのキャッチフレーズ

明日をひらこう

夢をひらこう

みんなでひらこう

令和3年度 地域協働学習の目標

- 1 他者と協働しながら自分の役割を果たすことができる。
- 2 自分の意見や考えを、聞き手に分かりやすく伝えることができる。
- 3 活動内容や調査方法について、なぜ必要なのか、何につながっていくのか、順序立てて考えながら学習を進めることができる。
- 4 地域の課題に対して関心を持ち、問題解決に向けて当事者として考えることができる。

★令和2年度からの変更点（2年生）

令和2年度はクラス別にテーマを設定していましたが、令和3年度は、いくつかのテーマの中から興味のあるものを選択させ、クラスを解体して班編制しました。

※令和2年度のテーマ

- 2年1組 出雲産あずきの普及
- 2年2組 外国人・日本人がともに住みやすい街づくり
- 2年3組 木綿街道の活性化
- 2年4組 一畑電車を利用した地域活性化



※令和3年度のテーマ

**農業、小豆、船川、スイーツ開発、
地域医療、多文化共生、空き家活用、
廃校活用、イベント、愛宕山、文化伝承**

- ・令和2年度は秋フォーラムまでを班別探究とし、それ以降は進路に関する個人探究学習を行いましたが、令和3年度は春フォーラムまで班別探究を行うこととしました。
- ・そのためフィールドワークも一斉に実施しました。

廃校活用の一例

旧光中学校体育館で開催された「HAIKOU☆文化祭」
ひらこう図書委員会が**ビブリオバトル**を披露



★廃校活用イベントプロジェクト★

「一日だけの開校」 HAIKOU ☆ 文化祭

学校・学年関係なく、校境なき文化祭★入場無料
企画運営を実現するための団体
「廃校になった学校にもう一度光を。」

大人になった文化祭的なワクワクする何かがない。
これはもう、一から作るしかない。
大人も子供も一緒に楽しめる
「コミュニティ活性化・みんなの文化祭」
「みんなで作る文化祭」

日時：令和3年3月21日
オープン 10:30
スタート 11:00～クローズ 16:00
場所：旧出雲市立光中学校 体育館

入場料無料 (入場規制あり)



イベント、多文化共生、文化伝承の各班は、
ひらこう図書館を活用して探究スタート！



<例> 地域の文化伝承の探究

コミセンや出雲市の図書館との連携も不可欠

河下盆踊り

郡山地区河下町に伝わる盆踊りである。元弘2年（1332年）郡政に配流になった後醍醐天皇の無事救済を願って阿彌寺の僧頼源（らげん）律師が、一山の僧徒を集め念仏踊りをしたのが起源とされている。

また、慶長のはじめ、念仏踊りの一座をひいて京にのぼった出雲阿国が、この河下盆踊りの手を基礎として歌舞伎を編み出したとも伝えられている。

もとは、盆の15日の夜、河下常光寺の前庭で小さな白を中心に桔梗の絵になって踊られていた。最初は、盆のみで、踊り手は、鉢巻や粗かむりで白面の浴衣の裾をあげて踊った。

昭和の初めに出版した盆踊り大会をきっかけに保存会が結成され、振り付けや歌詞に工夫が凝され、楽譜も筆のみから尺八が加わり、最後になると三味線も加わった。男性（進化）の導入や衣装の統一、男性のみで踊る等変化を加え今日の洗練された優美な河下盆踊りへと変遷を辿った。

河下盆踊りは、指先を上から下へ振りゆったりとしたしぐさが優美な踊りである。

河下盆踊りには、「基句踊り」「平くどき踊り」「山くどき踊り」「関の五本松踊り」「安来節踊り」がある。

歌詞は、河下基句（基句踊りに使用）、出雲くどき（平くどき踊り、山くどき踊り、関の五本松踊りに使用）安来節（安来節踊りに使用）がある。

囃子は、基句踊りが「トゴドッコイ ドッコイ ドッコイ」、平くどき踊りが「ヨウイ ヨウイ ヨウイヤナー」、山くどき踊りが、「ヤンハトナナイ ヤンハトナナイ」である。

平成24年7月、河下盆踊りの「基句踊り」が、基句を残す盆踊りは県内でも唯一で貴重な踊りであるとして出雲市指定無形民俗文化財に指定された。



昭和9年8月

河下盆踊り保存会 事務局 阿彌コミュニティセンター
TEL 0853-66-0001 FAX 0853-66-0099

司書が収集した資料の一部。

1年生には「地域みらい学」を開講

昨年度は「雲州ひらた学」と呼んでいた講義を名称変更。
雲州平田の古地図を収集する際、司書に協力を依頼。



地域みらい学

「出雲國風土記」 川島芙美子先生の講義



地域協働学習を より深めるために 2019年度（令和元年度） ひらこう図書館蔵書に なった本

探究学習のレファレンス
広い範囲で集めておくか
または
ピンポイントで集めるか

ジャンル	NDG	書名	編著者名
人	281	なぜそんなに熱いのか 中国地域で輝いている人たち	中国地方総合研究センター 編
ブラジル	302	Monica AND FRIENDS ブラジルと日本	マウリシオ・デ・ソウザ
ブラジル	302	Monica AND FRIENDS 日本の学校	マウリシオ・デ・ソウザ
ブラジル	302	TURMA DA Monica Brasil e Japao	DE SOUSA MAURICIO
ブラジル	302	TURMA DA Monica EA ESCOLA NO Japao	DE SOUSA MAURICIO
人口	334	人口減少社会のデザイン	広井良典
多文化	334	多文化共生地域福祉への展望 多文化共生コミュニティと日系ブラジル人	朝倉美江
多文化	361	多文化社会で多様性を考えるワークブック	有田佳代子 他
多文化	361	地方発外国人住民との地域づくり 多文化共生の現場から	徳田剛 他
多文化	361	外国人と共生する地域づくり 大阪・豊中の実践から見えてきたもの	とよなか国際交流協会
多文化	361	多文化共生 人が変わる、社会を変える	松尾慎
地域社会	361	地域をまわって考えたこと	小熊英二
SDGs	361	持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン：実践地方創生×SDGs	寛裕介
地域開発	361	「小さな拠点」をつくる 図解でわかる田園回帰1%戦略	藤山浩
労働者	366	外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？	内藤正典
避難民救済	369	世界の難民をたすける30の方法	世界の難民をたすける30の方法
地域包括ケア	369	ケアするまちのデザイン 対話で探る超長寿時代のまちづくり	山崎亮
学校生活	371	同級生は外国人!? 多文化共生を考えよう ①～③	松島恵利子
社会教育	379	聞いてみました！日本にくらす外国人 ①～⑤	佐藤郡衛
民俗文化	380	それ日本と逆!?文化のちがいが習慣のちがいがい ①～⑤ 第2期①～⑤	須藤健一
シジミ	484	シジミ学入門	中村幹雄
地域医療	498	地域医療はおもしろい!! 地域を癒す48の取材記	北村聖
外国都市	518	ポートランド Portland：世界で一番住みたい街をつくる	山崎満広
建築	521	中国地域のよみがえる建築遺産 新たな生命を吹き込まれたレトロ建築の魅力	中国地方総合研究センター
地域開発	601	現場発！ニッポン再興 ふるさとが「稼ぐまち」になる16の方法	出町譲
地域開発	601	廃校再生ストーリーズ	菊地敦己
地域開発	601	住み継がれる集落をつくる 交流・移住・通いで生き抜く地域	山崎義人
農村開発	611	農山村からの地方創生	小田切徳美
かがく絵本	616	あずき	荒井真紀
食用作物	616	ダイズ・アズキ	農文協
鳥大研究	622	しまねの園芸研究	島根大学生物資源科学部
出雲・美草	675	地方発ヒットを生む逆算発想のものづくり「稼ぐ地方」へ脱皮しよう	渡辺和博
スポーツ	780	「地元チーム」がある幸福 スポーツと地方分権	橋本俊昭
ポルトガル語	869	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語初級	兼安シルビア典子
イタリア語	873	和伊辞典 Dizionario Giapponese-Italiano	高橋久

2020年度（令和2年度）図書館報：本の紹介



探究学習を楽しむために



探究学習のプロセスで最初のステップとなるのが「課題の設定」です。なんとなく日常に埋もれていると気づきにくいかもしれませんが、好奇心をもって日々アンテナを張り巡らせていれば、課題のタネは無尽蔵にありそうです。なにも「探究」とかしこまらなくても、毎日の学習は「問い」にあふれているし、部活動・趣味・お楽しみ、さらには人間関係にも、そのタネは存在します。もしかすると、あなたの将来を決める進路もひとつの「問い」がきっかけになるかもしれません。時には奇をてらうような荒唐無稽の問いが、歴史を動かすような研究に結びつくことだってあるのです。実は、大学の研究や論文におもしろそうな課題設定がたくさん見られます。それを知ることができる本を、ここで紹介しましょう。

探究学習は、あなたの疑問から始まります。「こんな見方があったのか?!」という思いにたどりつけたら、研究はきっと楽しくなるはずです。



『いま、この研究が面白い』 岩波書店編集部（編）／岩波ジュニア新書

美しくありたいと願うのは健康な人ばかりではありません。高齢者の方・介護を必要とする人も思いは同じはず。そこに注目した、福祉と美容の両分野が見落としがちだったかもしれない「美容福祉」という研究。韓国の絵本と児童文学にひかれて始まった「韓国児童文化研究」。そんな14分野の最前線で活躍する人が、その魅力と社会にとっての意味を語っています。

『もっとヘンな論文』 サンキュータツオ（著）／角川書店

「プロ野球選手と結婚する方法」「かぐや姫のおじいさんは何歳か」……論文名だけ見ると信じがたいですが出典もきちんと明らかにされている研究です。論文そのものが掲載されているのではなく、著者が解説してくれる本です。難しそうと敬遠しないで、安心してお楽しみください。

『これからの「正義」の話をしよう』 サンデル（著）／ハヤカワ文庫

「1人を殺せば5人が助かる状況があったとしたら、あなたはその1人を殺すべきか?」「金持ちに高い税金を課し、貧しい人びとに再分配するのは公正なことだろうか?」「前の世代が犯した過ちについて、私たちに償いの義務はあるのだろうか」ハーバード大学史上最多の履修者数を誇る超人気講義では、こんな問いが提示されています。あなたも正解のない難問に挑む講義に参加してみましょう。

『実況☆料理生物学』 小倉明彦（著）／大阪大学出版会

解剖学、生化学、生理学の実験を言われると難しそうで尻込みしがちですが、つまり調理のこと。とはいえラーメンは麺づくりから、焼き肉がテーマの日は骨付きバラ肉とかホルモンという言葉が登場します。実際にあった名物講義をもとにした、やさしく楽しい科学本。あえて文系・理系入り交じった講義だったそうで、歴史や文化も学べます。受講資格は何でも食べられること。

『奇跡の論文図鑑』 NHK「ろんぷ〜ん」制作班（編著）／NHK出版

本来の論文タイトルは「ラーメン残渣汁由来のBDFの製造方法の検討とエンジン性能」。これが本書の目次では「ラーメンの残り汁でエンジンは動くか?!」となります。世の中にはありとあらゆるものが研究対象になるし、研究論文には底知れない人間の好奇心が秘められているのに、難しすぎて論文は読まれる機会が少ない。ならばなるべくかみくだいてまとめよう!というのがこの本のねらいです。中には高校生の研究も掲載されています。

今後の課題として

探究学習のレファレンス

結果として未使用のままの資料が出てくるときに...

実は、書名が疑問形になっている本も多くあります。ストレートなものから、そんなことがテーマになるの？と書名に疑問を持ちそうなものまで。図書館の分類番号のジャンルにつき1冊ピックアップしてみました。

総記	『ロボットは東大に入れるか』	A Iにしかできないことは何か。そして、人間に残されていることとは何か。
哲学	『赤ちゃんは世界をどう見ているのか』	赤ちゃんの見る世界をさぐっていくと、そこに脳の発達の謎とメカニズムが見えてくる。
歴史	『古代の都はどうつくられたか』	中国の影響を受け、独自の改変が加えられた各国の都作りを設計思想から追究。
社会科学	『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』	身近な疑問からはじめる会計学。
自然科学	『なぜ分数の割り算はひっくり返すのか？』	数学を実生活にあてはめて説明する。
工学	『ヨーロッパの都市はなぜ美しいのか』	広場、噴水、モニュメント…都市を構成する仕掛けのおもしろさ、楽しさ、奥深さを探る。
産業	『これから始まる自動運転社会はどうなる！？』	「自動運転」や「無人運転」のシステム、将来性を読み解く。
芸術	『日本神話はいかに描かれてきたか』	原典にはないイザナキ・イザナミ神の国生み神や武天皇の雄姿等をどうビジュアル化したか。
語学	『「とりあえず」は英語でなんと言う？』	「うざい」「切ない」「ハイテンション」「お疲れ様」「ごちそうさま」……は？
文学	『近代文学をどう読むか』	近代人の誕生⇒西洋文学の翻訳⇒国産化作品の出現の過程を追う。

まとめ（目標から振り返る探究学習の達成度）

一般的な探究学習の目標を考えたときに、次の6点を挙げることができます。

1. 論理的思考を学習で体験しながら訓練する。
2. 自らの興味関心に基づいて課題設定するスキルを培う
3. 課題解決に向かい情報を多面的に収集し、整理・活用するスキルを培う
4. 課題に対応する研究成果をアウトプットする手段を知り、実践する
5. 自らの探究活動を振り返り、客観的に自己評価する
6. 自他の探究活動に対する質問力を養う

平田高校における探究学習の課題点

- ➡ 一つ一つの取り組みにおいて最短な手段（ショートカット）を選びがちなので、結果として多彩な情報を整理するとか、論理的に考えをまとめるといった手順を踏まないまま、身近にあるものを並べて結論づけることとなっています。
- ➡ **ひらこう図書館**からの支援は、この過程に最も関わりを持ちます。資料のスタイル、整理の仕方、提供方法が今まで以上にわかりやすくなることが期待されています。
- ➡ 探究学習が単発で完了されていることが少なくないです。もっと多くのことを関連づける思考ができるようになれば、情報収集のバリエーションが増やせるし、発想も豊かになっていくことが望めます。

「最後に」

さらにレベルアップさせていくために・・・

学びを考える際、批判力も大事な要素となります。
これは現在の平田高生に不足がちだと指摘される点ですが、
質疑応答の場面でも質問が寄せられることは少なく、
好意的な感想で終始することが多いです。

大勢の前で質問することは勇気が
必要です。グループ発表の場でも
積極的に意見が交わされる日が
くることを待ち望んでいますし、
今後も支援していきたいです。



ご助言やヒントをいただいた図書館関係者

高橋悦子さん（平田高校前職）

渡部信子さん（三刀屋高校）

原 弥生さん（三刀屋掛合分校）

矢頭香織さん（開星高校）

行武 望さん（出雲商業高校）

永田まどかさん（松江南高校）

實重美紀さん（開星高校）

平田高校ワーキングチームの仲間たち（敬称略）

森山智子（主幹）

亀田律子（総務）

黒崎 紅（進路指導）

田原義崇（教務）

梶谷 妙（司書）

長門愛香（高大連携推進員）

参考資料（参考図書）

「平田高校探究学習に伴走した図書館の軌跡」 高橋悦子著（2021年3月）

「平田高校：ひらこう図書館報」 No76（2020年） No77（2021年）

「島根県高等学校図書館概要調査」（2019年11月5日発行）

「学校図書館問題研究会：学図研ニュース No415」 2020年9月1日

「ぼくらは地方で幸せを見つける ソトコト流ローカル再生論」 指出一正著（ポプラ社） 2016年

「学校図書館はカラフルな学びの場」 松田ユリ子著（ぺりかん社・なるにはBOOKS）

「学校図書館をハックする』 クリスティーナ・A、ホルズワイス、ストーニー・エヴァンス（新評論）



平田プラタナスプランと ひらこう図書館の連携

以上で活動事例報告を閉じます。
ありがとうございました。

島根県立平田高等学校 教諭 舟木 司